

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300600		
法人名	社会福祉法人 千寿会		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	熊本県下益城郡美里町二和田字下原1235番地1		
自己評価作成日	平成27年2月27日	評価結果市町村受理日	平成27年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成27年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

眺めが一望できる高台に建ち、季節の移り変わりが体感できる環境の中で、木の香りに包まれた温かい落ち着いた雰囲気が特徴のグループホームです。①いつも笑顔で信頼関係を築きます。②その人らしく生活できるように支援します。③家族や地域との結びつきを大切にします。を基本理念とし、ご利用者やご家族が楽しく安全に安心して過ごして頂けるように努めています。ご家族や本人の思いをくみ取り、季節ごとの行事や日々の活動の中で個々の役割や楽しみを見つけ喜びや笑顔のある生活が送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価が始まって以来、連続して11回目の受審となる。外部評価は5年間継続して受審すれば2年に1回で良いとされているが、サービスの質の確保の為に重要な機会と捉え継続している。また、自己評価を全職員が一項目つづチェックする事で、項目の狙いを理解し日頃のケアを振り返り、気付きを深めている。外部評価の結果を反映し、サービスの質の向上を図っている。 \* 自然豊かなのどかな風景に恵まれ、季節感を取り入れた親しみのある料理と、家族と職員が補い合いながら利用者に寄り添うことで、落ち着いた環境が整えられ、利用者の穏やかな表情が引き出されていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎日朝礼の際に唱和している。安心できる環境作りに努め笑顔で接し、「その人らしく生活する」意味を考えながら支援する取り組み(ひもときシートの活用)や努力を行っている	理念をリビングに掲示し、唱和する事で意識付けを行っている。また、新たに「ひもときシート」を活用し、利用者の発言や行動の背景に何があるかを理解しながらケアするように努めた事で、利用者が落ち着いた生活を送れるようになる等、理念の実現に繋がっている。今後も利用者全員について、「ひもときシート」が活用される予定で、更なる理念に沿った支援が期待される。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺の清掃作業や施設行事への参加を呼びかけ交流を行っている。又、保育園からの慰問や地域のボランティアの方の訪問等で地域との交流を図っている	散歩の途中に知人の家でお茶を頂いたり、知人が施設を訪問される等、ごく自然な交流が行われている。施設行事の夏祭りに地域住民の参加を呼び掛けたり、地域行事の「どんどや」や「消防点検」の見学に出かける等、積極的に交流を図っている。また「やまびこ祭り」では、作りものを見学する他、職員が踊りのパレードに参加する等、地域住民と共に祭りを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター活動として、地域の会社等での認知症研修会の講師として参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員は行政・社協・民生委員・地域住民・ご家族代表・理事で構成し、2か月に1度開催している。日頃の活動状況の他リスクやグループホームの課題など議題としご意見を頂きサービス向上に努めている	運営推進会議を家族代表・地域代表・民生委員・町役場・社協の参加を得て定期的開催している。利用者状況・活動状況・職員の研修等が報告され、施設への理解を促している。委員の社協局長から傾聴ボランティアの紹介が有り、月4回、1時間程の訪問が開始された。利用者の思いや希望を聞き取る良い機会であり、サービスの質の向上に活かされる事が期待される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題点があった場合などには、町の担当者 に直接意見を頂き参考にしている 又、認知症施策総合推進事業により地域で連携したネットワーク作りに取り組んでいる	役場職員の異動では丁寧な引き継ぎが行われており、随時情報の提供が行われている。また、施設からの確認事項等についても、電話の他に管理者が直接出向いて相談し適切に対応してもらう等、連携が取れている。現在、社協を中心に福祉施設・病院・行政のネットワーク作りを進め、町の社会資源マップ作り協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行い、それぞれのリスクの回避に向けたケアの取り組みを実施している リーダー会議では、「リスクの報告と拘束をしないケア」について各事業所で話し合い、園全体で共通の認識を持ちケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を法人全体で毎年実施している。また、法人のリーダー会議で「リスクの報告と拘束をしないケア」について検討し意識の向上が図られている。帰宅願望のある利用者には、家族に面会を依頼したり、職員が利用者寄り添って一緒に出かける等、本人の意思を尊重する支援に努め、拘束をしないケアに取り組んでいる。ユニット間を往復する利用者には見守りを重視する等、各ユニット職員の連携した対応が見られた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ひだまり会議の中で勉強会を行い、虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度利用者のプライバシーを考慮し管理者が対応している 社協担当者と共に協力し支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族等に十分に説明を行い、不安や疑問点を尋ねご理解・納得して頂く様に心掛けている 又、気軽に相談して頂ける様関係作り努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の言葉や表情行動等で思いを理解し対応している 又、家族会や面会時に個別に話を聞く場を設けたり、アンケートを実施しご意見や要望に対する改善点を話し合い実行に努めている	毎年8月に「家族アンケート」を実施。質問内容は毎回職員で検討している。食事に関する質問では「食事の風景を見たい。そのような場を設けてほしい」「メニューがあるか聞いた事がない」等、意見要望が寄せられ、全職員で改善策を検討。家族の意見要望から反映し、新年度、通常の食事を利用者と一緒に楽しむ機会を設ける事、メニューを掲示する事等を実施する計画となった。尚、検討結果は運営推進会議と広報誌で報告し、家族への周知を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	責任者会議や部長会議で職員の気づきや意見を伝え検討している 又、ひだまり会議や職員アンケート等で意見を求め課題・改善点など全職員で共有できるように努力している	職員は気付いた事や意見を口頭で伝え、重ねてメモ・申し送りノートに記載している。出された意見は法人の責任者会議や部長会議で検討され、結果をひだまり会議で報告して情報を共有している。尚、職員の意見を運営に反映させる為に職員アンケートを実施しており、アンケートで各々に目標を問い主体性を発揮させ、職員は熱意を持ってケアに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直しを行い職務内容等の要件を定めて条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質の向上の支援に関する計画を策定し、研修の機会を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城ブロック会のグループホーム研修などに参加し、勉強会又は交流を通じ意見交換や情報交換をしケアの質の向上に努めている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談やケアマネより生活歴や現状などの情報を入手し、安心できる環境作りに努めている 本人の要望や思いに傾聴し寄り添うケアを行うよう努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談でご家族の思いや困っていることの把握に努めている 又、契約時には、ご要望に耳を傾け、面会の機会や電話等で会話の機会を多くし信頼関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入時に家族や本人が求めている支援を見極め提供する努力をしている 機能訓練や訪問歯科など必要なサービス内容についても柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや料理作り食器洗いなど能力に応じて、職員と一緒にいる 又、漬物や野菜づくりなどはご利用者の経験から助言を頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に電話をしたり、面会時にご利用者の変化や状態を伝えケアの方針について相談しながら計画を行っている お盆や正月の帰省や行事への参加などご家族の協力を得ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親せきの方お友達などいつでも気軽に来て頂ける様な環境作り心にかけている 連絡により面会の機会を作ったり、故郷訪問を行った 又お寺参りや生まれ故郷(実家)にも協力を得て訪問するなど馴染みの場・人の関係が途切れないように支援している	ふるさと訪問や、盆・正月の外泊・外出、家族と共に楽しむ餅つきや秋の旅行等、家族と触れ合う機会が多様に計画されている。また一軒の家として気軽に訪ねてもらえるよう、訪問者へお茶を出す等、快く受け入れており、馴染みの場所や人との関係を継続する支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が円滑に行くように、席の配慮やレクレーションなど皆で過ごす時間をつくっている 又、職員も個々に色々な話が出来る時間を作り孤立しないように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院へ移られた際は、面会やご家族やケアマネより情報を得る等、継続的につながりを持ち相談や支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケア実践シートを作成し、希望や意向の把握に努めている 又、プランの変更・見直しの際にも確認を取っている「そのひとらしさ」を理解するため、「ひもときシート」の活用もおこなった	ケア実践シートやひもときシートを活用し、利用者の思いや意向の把握に努めている。どうしてこのような行動になるのか、何をしたいのか、こうしたいのではないかな等、職員の意見や家族からの聞き取りを行う等、多角的な視点から意向をくみ取る努力をしている。「私は何でここにいるのかな」という利用者の言葉を家族に伝え、協力を得ながら外出支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や環境や趣味・性格・既往歴等など本人やご家族から伺い把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「アセスメントシート」の作成により暮らしの現状の把握を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時ケアマネと職員で基本情報を把握 ご家族・本人・職員で担当者会議を行い、要望・意見を聞き取りプランに入れる様努力している 毎月の実践シートによるモニタリングも役立てて計画に反映している	毎月、ケア実践シートを基にモニタリングを実施。サービス担当者会議には利用者・家族も参加してもらい、参加できない家族には面会時や電話で意向を確認している。ケアプランは半年に1回の見直しの基本で、心身の状態変化に伴い随時サービス担当者会議を開いてプランを変更し、現状に即したプランとしている。プラン作りには本人の意向を優先的に取り入れる事を心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはケアプランを記載し必要な項目を確認し実践に生かしている 記録の右端に申し送りの欄を設け気づきや変更事項を記入し情報の共有・実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の各事業所間との連携を図り柔軟な対応が出来るように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけ医・社協・学校・消防署・お店の他、スタッフ・家族・ボランティアの方々等の協力を得ながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どのご利用者が協力医療機関をかかりつけ医としている 医師への報告や医師からの指示により適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としており、月2回の往診を受けている。2名の利用者は心身の状態を口頭または文書でかかりつけ医に伝え、家族が同行受診している。状況によっては職員が同行する等、柔軟に対応している。歯科受診が必要な利用者や希望する利用者を対象に、月4回の訪問歯科を行う等、適切に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があれば直ちに看護師へ報告し適切な受診や看護が提供できるようにしている 看護師が不在な際も他部署の看護師の協力を得たり、かかりつけ医の看護師へ連絡を取るなど連携を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月2回の往診の際、又は発熱時などの受診の際付き添い状況を細かく説明し情報交換を行っている 2ヶ月に1回の病院とのナース会議でも情報交換を行い関係作りに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意思を尊重し、家族と相談をしながらケア職員、看護師、病院(主治医・看護師)と連携を取り支援している 重度化した段階で主治医に病状の説明を依頼し施設でできる事を十分に説明し方針を決めチームで支援している	重度化した時点で家族に「看取り指針」を示し、同意を得ている。病状の変化に伴って随時に家族の意向を確認し、話し合いを重ねて支援している。現在、看取りの利用者は1名で、面会は24時間随時可能となっており、家族が宿泊できる体制を整え、利用者と家族が共に過ごす時間が大切にされている。1日1回の離床で馴染みの人の中で過ごして頂く等、最後までその人らしい生活が送れるよう、全職員で手厚い支援に努めている。尚、看取りを行った後はその度に振り返りを行う等、体験からの学びを大切にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応、緊急手当の勉強会を行い緊急に備えている マニュアルについても見直し周知徹底を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加し防火管理者立ち会いの元、避難訓練を行っている 又、法人全体での避難訓練もおこない緊急連絡網も整備している	事務室カウンターにヘッドライト付きのヘルメットを用意し、夜間の非常時に備えている。防災訓練を消防署立ち会いを得て、年2回利用者も参加し、夜間の通報・消火・避難を想定して総合訓練が実施されている。法人の各施設は自動通報装置で連絡が可能になっており、緊急連絡網を整備し連携を図っている。	地域との連携が必要との認識から、地元消防団に施設を見てもらった経緯があるが、その後の展開は見られない事から、再度地域連携について検討されるのも良いと思われる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「優しく親切に丁寧な言葉使い」を心がけ、尊厳に努めている 又プライバシーの確保をする対応や環境作りに努めている	言葉使いは「です・ます調」を基本とし、笑顔で利用者に寄り添い、優しく支援するといった意識付けを行っている。中途採用職員は研修でコミュニケーションを学ぶだけでなく、先輩職員から現場で具体的な指導を受けている。最も深く尊厳に関わる排泄・入浴時は、プライバシーの保護やプライドを傷つけない対応・言葉かけに留意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の気づきを高め ご利用者の会話や行動から思いや希望を察知できるように努めている 言葉かけの工夫により自己決定が出来るように心懸けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険が伴わない限り、本人の行動を阻止せず、見守り・付き添い対応している 起床時間や食事の時間・入浴等本人のペースに応じ支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や朝の着替えの際は、本人に選んでもらったり一緒に選んだり好みを尊重している 又散髪や髪型なども聞きながら対応している。外出時は希望に応じお化粧の支援も行うようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で出来た野菜を使い能力に応じ、皮むきやカットをして頂いている 下膳の手伝いや茶碗洗いなども一緒に行っている 又、楽しく食事がとれるように席の配慮も行っている	特養の管理栄養士が作成したメニューを基に、頂き物や施設内の菜園の野菜を活用し、季節を感じられる料理を提供している。利用者にて得意料理の「白和え」を職員と一緒に調理してもらう等、利用者の主体性が上手に引き出されていた。時には変化をつけて、行事食や郷土料理の他、回転寿司等の外食を楽しむ機会も作られている。尚、干し柿作りや梅干し作りなど四季を感じる作業は、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病気や体調を考慮し、主食の量・塩分の調整を行っている 又、嚥下の状態やむせの程度に応じ食事形態を工夫し提供している 水分については全員チェックを行い少ない方は、特に傍に寄り添ったり好みの物を勧めたりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、歯磨きや嗽を行い義歯を装着の支援を行っている 義歯は毎日洗浄を行い清潔に配慮している 必要に応じ、訪問歯科を利用している 毎食お茶を提供し、口臭予防に努めている ターミナルの方は特に夜間も努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン・尿量を把握しご利用者に応じたパットや声掛け誘導を行い利用者の負担削減と能力に応じ自立支援に向けた介助を行っている	昼間は生活リズムや表情、仕草から排泄のタイミングを把握してトイレ誘導を行っている。夜間は自力または介助を受けて、ポータブルトイレを使用し自立支援に繋げている。尚、失敗しても安心なように、利用者一人ひとりの状態に合ったパットを使用し、快適な支援となっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに応じ運動を勧めたり水分補給に努め自然排便を促している チェック表により排便状況の把握に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意思や体調に合わせて週に2~3回は入浴を行っている 入浴を好まれない方へも気分の変化を見ながら個々に応じた声掛けを行ったり時間をずらしたりしながら入浴をして頂いている 希望に応じ女性対応を行っている	週2~3回の入浴を基本としているが毎日でも入浴可。朝風呂を好む人には朝から入浴、夜に服を脱ぐ習慣のある人は夜間に入浴する等、利用者の入浴したい気持ちを大切に、希望に応じた支援を行い、ユニットバスやリフトバスを活用し、個々の身体状況に合った入浴方法を取っている。入浴に関するマニュアルを随時見直して、安全な入浴に努め、利用者の満足に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間を個々に応じ持てるように支援している 体操や散歩・家事等のお手伝いなどを取り入れている 夜間は安眠できるように寝具の清潔や室温・湿度の調整を図り不穏な方へは対話・暖かな飲み物の提供も行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し理解するようにし、いつでも見れる様にファイルしている 症状を観察し医師へ報告し内服の管理を行っている 誤薬がないように日付・名前・時間帯の確認を内服前後に行い服薬の支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物・散歩・ドライブ等の外出や生け花・料理・縫い物・草むしり等、個々に応じた支援を行い張り合いや喜びのある日々を過ごせるように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見ドライブや手作り弁当持参での新事業所見学や秋の旅行・食事会等ご家族の協力のもと外出支援を行った 日常的には希望に応じ身のスーパーや物産館等で買い物支援を行っている 年に1回は故郷訪問や要望に応じお送りする支援を行った	ツツジ・アジサイ・ヒマワリ等季節の花を求めてのドライブには手作り弁当を持参し、更に楽しみを倍増させている。家族の協力を得て清和への「秋の旅行」は、紅葉狩りと清和文楽館での昼食や買い物等、気分転換を図る機会が多様に計画されている。利用者の希望に応じて物産館やスーパーへ出掛けて、自らが選択し購入する機会も作られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	園外へ出かける時は、お小遣い程度の金銭を持参し希望により買い物が出来るように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙の色塗りや文字を書いてご家族宛に送ったり、希望に応じ電話をかけ直接話をして頂いている ご家族との関わりが安心感へととなっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはテーブルやソファをご利用者の落ち着く居場所を考慮し設置している 又季節ごとに装飾を行い季節感を取り入れたり、声や音を含め静かな環境作りに努めている 掃除をこまめに行い清潔が保てるように配慮している	木の温もりを感じるリビングは、天井が高く広く、開放的な空間になっている。多種多様なソファや椅子が随所に配置され、利用者は好きな場所で自由に過ごす事ができて、昼食の準備を手伝う利用者の生き生きとした表情や、職員の手を取り安心しきった表情で座る利用者の姿がある等、室内には穏やかな時間が流れていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に好きな場所で過ごせる様にソファを数か所に設置している 廊下の片隅にも一人掛けのイスを設置し、独りでも数人でも気の合った方と過ごせる様に配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力により使い慣れた家具や寝具を準備して頂いている 家族の写真や本人の興味のある物を飾り安心できる空間づくりを行っている	自宅で使っていたソファやテレビ、趣味の将棋の本等、馴染みの物を持ち込み、家庭生活の延長にある雰囲気、その人らしい落ち着いた部屋作りとなっている。壁に飾られた、ひ孫・孫・子供の家族写真は利用者に元気を与えているように思われた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には本人が解りやすいように名札をつけ、トイレなど共有する場所には表示と共に目印をつけ手すり伝いに行けるように配慮している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300600		
法人名	社会福祉法人 千寿会		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	熊本県下益城郡美里町二和田字下原1235番地1		
自己評価作成日	平成27年2月27日	評価結果市町村受理日	平成27年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5
訪問調査日	平成27年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

眺めが一望できる高台に建ち、季節の移り変わりが体感できる環境の中で、木の香りに包まれた温かい落ち着いた雰囲気が特徴のグループホームです。①いつも笑顔で信頼関係を築きます。②その人らしく生活できるように支援します。③家族や地域との結びつきを大切にします。を基本理念とし、ご利用者やご家族が楽しく安全に安心して過ごして頂けるように努めています。ご家族や本人の思いをくみ取り、季節ごとの行事や日々の活動の中で個々の役割や楽しみを見つけ喜びや笑顔のある生活が送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎日朝礼の際に唱和している。近隣の方への挨拶を心掛け、散歩や買い物に出かけた際に馴染みの方が入居者の方に声をかけられる機会もある		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺の清掃作業や施設行事への参加を呼びかけ交流を行っている。又保育園からの慰問や地域のボランティアの方の訪問等で地域との交流を図っている。近隣の独居の方とは馴染みの関係で、散歩途中にお邪魔したり時折遊びに来て頂いている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター活動として、地域の会社等での認知症研修会の講師として参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員は行政・社協・民生委員・地域住民・ご家族代表・理事で構成し、2か月に1度開催している。日頃の活動状況の他リスクやGHの課題など議題としご意見を頂きサービス向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外にもブロック会議などへも町の担当者の方も参加されており意見等を頂き参考にしている。又、認知症施策総合推進事業により地域で連携したネットワーク作りに取り組んでいる。次年度より傾聴ボランティアに来て頂く予定		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行い、それぞれのリスクの回避に向けたケアの取り組みを実施している。リーダー会議では、「リスクの報告と拘束をしないケア」について各事業所で話し合い、法人全体で共通の認識を持ちケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ひだまり会議の中でも勉強会を行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度利用者は、プライバシーを考慮し管理者が把握し対応している。社協担当者と共に協力し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族等に十分に説明を行い、不安や疑問点を尋ねご理解・納得して頂く様に心掛けている。又面会時にご意見やご要望がないか聞くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の言葉や表情行動等で思いを理解し対応している。又、家族会や面会時に個別に話を聞く場を設けたり、アンケートを実施しご意見や要望に対する改善点を話し合い実行に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週月曜日「責任者会議」・月1回「部長会議」で職員の気づきや意見を伝え検討している。又毎月「ひだまり会議」や職員アンケート等で意見を求め課題・改善点など全職員で共有できるように努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直しを行い職務内容等の要件を定めて条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質の向上の支援に関する計画を策定し、研修の機会を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城ブロック会のグループホーム研修などに参加し、勉強会又は交流を通じ意見交換や情報交換をしケアの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前の面談やケアマネより生活歴や現状などの情報を入手し、安心できる環境作りに努めている。本人の要望や思いに傾聴し寄り添うケアを行うよう努力している。入居後も必要な方には連絡をとり報告、相談している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約や入所前の面談でご家族の思いや困っていることの把握に努めている。契約時には、ご要望に耳を傾け、面会の機会や電話等で会話の機会を多くし信頼関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入時に家族や本人が求めている支援を見極め提供する努力をしている。機能訓練や訪問歯科など必要なサービス内容についても柔軟に対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや料理作り食器洗いなど能力に応じて、職員と一緒にしている。又、買い物のお供や代行を希望される方には行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に電話や面会時にご利用者の変化や状態を伝えケアの方針について相談しながら計画を行っている。お盆や正月の帰省や行事への参加などご家族の協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や親せきの方お友達などいつでも気軽に来て頂ける様な環境作りに心がけている。連絡により面会の機会を作ったり、故郷訪問を行った。又、家族にも協力を得て訪問するなど馴染みの場・人の関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が円滑に行くように、席の配慮やレクリエーションなど皆で過ごす時間をつくっている。又職員も個々に色々な話が出る時間を作り孤立しないように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や病院へ移られた際は、面会やご家族やケアマネより情報を得る等、継続的につながりを持ち相談や支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケア実践シートを作成し、希望や意向の把握に努めている。又プランの変更・見直しの際にも確認を取っている。意向の把握が困難な場合は家族に相談している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や環境や趣味・性格・既往歴等など本人やご家族から伺い把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の状態に応じ職員同士で話し合いながら、適切な支援ができるよう努めている。また、必要なことは申し送りを行い情報の共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時ケアマネと職員で基本情報を把握。ご家族の面会時や電話で要望を聞いている。必要に応じ状態を報告し介護の相談を行っている。毎月の実践シートによるモニタリングも役立てている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にはケアプランを記載し必要な項目を確認し実践に活かしている。記録の右端に申し送りの欄を設け気づきや変更事項を記入し情報の共有・実践に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各事業所間との連携を図り柔軟な対応が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけ医・社協・学校や消防署・お店の他、スタッフ・家族・ボランティアの方々等の協力を得ながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どのご利用者が協力医療機関をかかりつけ医としている。Drへの報告や指示により適切な医療を受けられるように支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があれば直ちに看護師へ報告し適切な受診や看護が提供できるようにしている。看護師が不在な際も他部署の看護師の協力を得たり、かかりつけ医の看護師へ連絡を取るなど連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月2回の往診の際、又は発熱時などの受診の際付き添い状況を細かく説明し情報交換を行っている。2月に2回の病院とのナース会議でも情報交換を行い関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の意思を尊重し、家族と相談をしながらケア職員、看護師、病院(主治医・看護師)と連携を取り支援している。重度化した段階で主治医に病状の説明を依頼し施設でできる事を十分に説明し方針を決めチームで支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応、緊急手当の勉強会を行い緊急に備えている マニュアルについても見直し周知徹底を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者も参加し防火管理者立ち会いの元、避難訓練を行っている 又、法人全体での避難訓練もおこない緊急連絡網も整備している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「優しく親切に丁寧な言葉使い」を心がけ、尊厳に努めている 又プライバシーの確保をする対応や環境作りに努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の気づきを高め ご利用者の会話や行動から思いや希望を察知できるように努めている 言葉かけの工夫により自己決定が出来るように心懸けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	危険が伴わない限り、本人の行動を阻止せず、見守り・付き添い対応している 起床時間や食事の時間・入浴等本人のペースに応じ支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や朝の着替えの際は、本人に選んでもらったり一緒に選んだり好みを尊重している 又散髪や髪型なども聞きながら対応している。外出時は希望に応じお化粧の支援も行うようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で出来た野菜を使い能力に応じ、皮むきやカットをして頂いている 下膳の手伝いや茶碗洗いなども一緒に行っている 又、楽しく食事がとれるように席の配慮も行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病気や体調を考慮し、主食の量・塩分の調整を行っている 又、嚥下の状態やむせの程度に応じ食事形態を工夫し提供している 水分については全員チェックを行い少ない方は、特に傍に寄り添ったり好みの物を勧めたりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、歯磨きや嗽を行い義歯を装着の支援を行っている 義歯は毎日洗浄を行い清潔に配慮している 必要に応じ、訪問歯科を利用している 毎食お茶を提供し、口臭予防に努めている ターミナルの方は特に夜間も努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターン・尿量を把握しご利用者に応じたパットや声掛け誘導を行い利用者の負担削減と能力に応じ自立支援に向けた介助を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに応じ運動を勧めたり水分補給に努め自然排便を促している チェック表により排便状況の把握に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意思や体調に合わせて週に2~3回は入浴を行っている 入浴を好まれない方へも気分の変化を見ながら個々に応じた声掛けを行ったり時間をずらしたりしながら入浴をして頂いている 希望に応じ女性対応を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動時間を個々に応じ持てるように支援している 体操や散歩・家事等のお手伝いなどを取り入れている 夜間は安眠できるように寝具の清潔や室温・湿度の調整を図り不穏な方へは対話・暖かな飲み物の提供も行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し理解するようにし、いつでも見れる様にファイルしている 症状を観察し医師へ報告し内服の管理を行っている 誤薬がないように日付・名前・時間帯の確認を内服前後に行い服薬の支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	買い物・散歩・ドライブ等の外出や生け花・料理・縫い物・草むしり等、個々に応じた支援を行い張り合いや喜びのある日々を過ごせるように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見ドライブや手作り弁当持参での新事業所見学や秋の旅行・食事会等ご家族の協力のもと外出支援を行った 日常的には希望に応じ身のスーパーや物産館等で買い物支援を行っている 年に1回は故郷訪問や要望に応じお送りする支援を行った		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	園外へ出かける時は、お小遣い程度の金銭を持参し希望により買い物ができるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙の色塗りや文字を書いてご家族宛に送ったり、希望に応じ電話をかけ直接話をして頂いている ご家族との関わりが安心感へととなっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはテーブルやソファをご利用者の落ち着く居場所を考慮し設置している 又季節ごとに装飾を行い季節感を取り入れたり、声や音を含め静かな環境作りに努めている 掃除をこまめに行い清潔が保てるように配慮している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に好きな場所で過ごせる様にソファを数か所に設置している 廊下の片隅にも一人掛けのイスを設置し、独りでも数人でも気の合った方と過ごせる様に配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力により使い慣れた家具や寝具を準備して頂いている 家族の写真や本人の興味のある物を飾り安心できる空間づくりを行っている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には本人が解りやすいように名札をつけ、トイレなど共有する場所には表示と共に目印をつけ手すり伝いに行けるように配慮している		